

創刊号

2026. 1

一般財団法人ゆうちょ財団 ポスタル部

## 創刊のごあいさつ

近年、日本ではインターネットをはじめとする電子的な通信手段の普及により、郵便物（手紙・はがき）の取扱量は減少傾向にあります。しかしその一方で、手紙やはがきが持つ「あたたかさ」や「人と人のつながりを生む力」が改めて見直され、その価値を再評価する動きが広がっています。

ゆうちょ財団では、こうした流れに着目し、手紙やはがきを活用した特色ある活動を調査して紹介するニュースレター「ポスタル便り」を創刊することといたしました。

創刊号で取り上げるのは、島根県・隠岐諸島の一つである知夫里島<sup>ちぶりじま</sup>で行われている地域おこしの取り組み「知夫あおぞら郵便局」（本当の郵便局ではありません）です。

この活動は、SNS を通じて手紙を募り、届いた手紙にはオリジナル切手等を貼って返事を出すもので、手紙を介して地域と島外の人々をつなげています。また、島内2カ所には、観光客や帰省客が投函すると必ず返事が届くポストも設置されています。

### ■ 知夫あおぞら郵便局代表 前原洋子さんに聞きました ■

——「知夫あおぞら郵便局（通称）」を立ち上げの経緯と前原様の思いについて伺います。

**前原さん**：知夫あおぞら郵便局は、今から4年前の2021年6月に誕生しました。

発起人は、Iターンで知夫村に移住してきた林さんという男性でした。林さんが有志を募り、当時6～7人ほどの賛同者が集まりました。私たちは何度か打ち合わせを重ね、「あおぞら郵便局」を設立しました。私もその時の賛同者の一人です。

立ち上げの背景には、「郵便受けには請求書やダイレクトメールばかりが届く世の中だけれど、そんな時に誰かからのお手紙がふっとポストに入っていたら、嬉しくないですか？」という素朴な思いがありました。そして、「今度は、誰かに手紙を書きたくなるようなことがないだろうか？」という考えも根底にあります。手紙が好きな人や、誰かに手紙を書きたいという気持ちを持つ人たちを集め、この団体を作りました。図書館のイベントとして、皆で集まって返事を書いたりしています。



知夫里島の位置

知夫村は、地元で生まれ育った人とIターンで来た人が混じり合って暮らしている場所です。そこには少なからず、障壁や違いといったものが存在します。また、人口は少なく、社会資源自体も多くはありません。

しかし、そんな小さなコミュニティだからこそ、「こんなことをやってみたい」「こんなことできないかな」といった思いを実現することが比較的簡単にできます。この小さなアイデアから、人と人との垣根が取り払われ、つながり合っていくことができるのではないか、という思いも抱いています。

### ——「あおぞら郵便局」というネーミングに込められた想いを教えてください。

**前原さん**：知夫村は日本海に浮かぶ小さな島です。現在の人口はおよそ 570 人です。

私たちは、この小さな島から「世界とあおぞらでつながっている」と考えています。手紙という媒体を通じて、世界中の皆さんとつながりたいという思いを込めて、このネーミングにいたしました。



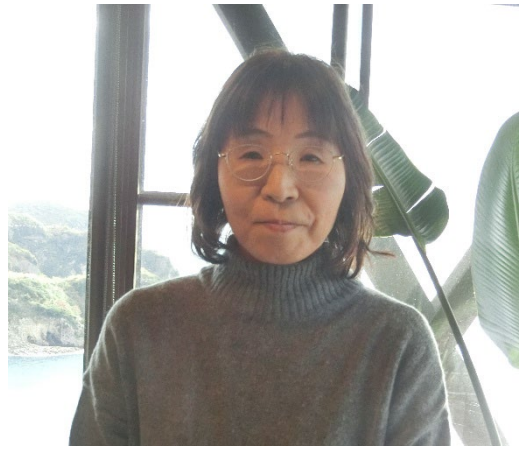
観光客や帰省客が投函すると必ず返事が届くポスト（知夫里島の来居港ターミナル（右）、ホテル知夫の里（左）に設置）



### ——今までの手紙の通数、内容、心に残ったエピソードについて教えてください。

**前原さん**：この 4 年間で 125 通の手紙をいただきました。特に今年の夏は、1 ヶ月に 10 通程度、ポストにお手紙が入っていました。

手紙の内容は、ほとんどが知夫を訪れた観光客の方からのものです。島の一部の自然や景色、人の温かさ、海の美しさといった感動が綴られています。



知夫あおぞら郵便局の代表 前原洋子さん

これまでにいただいたお手紙の中で特に印象に残っているのは、以下のようなものです。

- ・東日本大震災の被災地の方からのもの
- ・とても上手な愛犬のイラスト入りのもの
- ・趣味の音楽や楽器について綴ってくださったものの
- ・フェリーが好き、離島が好きという中学生からのもの
- ・引っ越したばかりで、知り合いがいなくて寂しいという気持ちを綴ったもの

### ——このデジタルの時代での手書きの手紙の良さ・魅力は何だと思いますか。

**前原さん**：SNS が全盛の時代ですが、私自身もスマートフォンやパソコンを便利に使っています。そのような生活の中で、手書きの手紙というのは、むしろ逆に新しく感じられる時があります。

紙を通して、生身の人がそこにいるという感覚は、メールやインターネットではなかなか得られない感覚ではないでしょうか。

また、地域の PR として手紙を使っていますが、これは非常に微力ではあるものの、知夫を訪れた人から実際の紙と文字の手紙が届くというのはとても新鮮です。

さらに、私たちは手紙をくださった方に対して返事を出しています。これは島に住んでいる人の視点で書くため、この土地ならではの良さ

やアピールポイントを、自分たちの言葉で盛り込める強みがあります。「また行こう」と手紙を受け取った人に思ってもらえたら嬉しいと考えています。手紙というアナログな手段だからこそ、温かみと感情が伝わり、島の魅力発信につながると感じています。

——今後挑戦したい新しい企画や展望についてお聞かせください。

**前原さん**：団体を結成した当初から、「香川県の離島にある漂流郵便局（届け先が分からない手紙を受け付けてくれる郵便局）にみんなで見学に行きたい」という話があります。

最近では、ラジオ番組に手紙を投稿して、自分たちの活動をアピールしてみてもどうか、というアイデアも出ました。また、活動の切り口として、皆で集まって書くだけでなく、メンバーが自分の好きな時に返事を書けたら良いという意見が出ました。そこで、この11月末から

は、図書館に立ち寄って、あおぞら郵便局の返事を書くことができるようにしました。

——最後に、この記事を読む人や島外の人へ伝えたいメッセージをお願いします。

手紙というのは、相手に届ける言葉であると同時に、自分の心を見つめる役割も持っていると思います。

手紙を書いているうちに、「自分はこういう風に考えているんだな」と逆に新しい発見をする時もあります。「この島が好きだ」という思いや、「手紙の相手のことをもっと知りたい」という気持ちなど、言葉の数々が人と人とを結びつけ、そして自分の心の浄化をさせることもできると考えています。

ぜひ、皆さんも手紙を書いてみてください。

——前原さん、ありがとうございました。

## ■ 知夫あおぞら郵便局の参加メンバーの方に聞きました ■

——参加した理由や経緯を教えてください。

**川本さん**：私、結構文房具が好きで、立ち上げメンバーの林さんもすごく好きだったので、文房具トークとかをしてたら、「今度手紙書く会を立ち上げるんだけど」という感じで誘っていただきました。

**仲さん**：私も林さんから「あおぞら郵便局を立ち上げるんで、その参加をしませんか」と言われました。「それ、いい取り組みですね」ということで、参加しました。



図書館に集まり、手紙の返事を書く様子

**中井さん**：図書館のイベントであおぞら郵便局の存在を知り、久しぶりに手紙を書きたいなと思い参加しました。

**宮岡さん**：私も図書館のイベントで知り、とても良い活動だと思い参加させていただきました。

——もらった手紙に返事をしたりする際に心がけていることを教えてください。

**川本さん**：皆さん共通で書く時にいつも意識してるのは、その時のこの島のリアルな季節を入れてますね。「波がちょっと荒れてきました」とか。

**仲さん**：手紙に書かれていた「景色が良かった」「これをやってみたかった」といった感想や問いかけには、できるだけ丁寧に返事を書くようにしています。疑問に思われた部分には、こちらから補足する形で答えています。また、せっかく知夫に来ていただいたので、もっと好きになってもらえたらと思い、私自身のことなども少し織り交ぜて書いています。



**中井さん**：まだ数通しか書いていませんが、知夫にきた時の感想を書いてくれる方が多いので、そうだね！それぞれ！と共感の気持ちを伝えられたらいいなと思って書いています。

**宮岡さん**：相手の方が手紙を読んだ時に、少しでもほっこりした気持ちになってもらえたらいいなと思いながら書いています。

——活動を通して、島の見方や生活に変化はありましたか。

**中井さん**：知夫にきてまだ短いので、お手紙を読んでいて新たな発見が多いです。その角度からの景色見たことないなと教えてもらえることもあるので楽しいです。



川本さん

——この島の魅力はどこにあると感じていますか。

**川本さん**：いろいろありますが、やはり季節の移ろいをダイレクトに感じられるところでしょうか。毎日「今日、日が長くなった？」とわかるほどで、自然に目が向くシンプルさがあります。風景もどこか研ぎ澄まされているように感じます。

**仲さん**：一度島を離れていた時期があったのですが、その間ずっと海が見たくて仕方ありませんでした。知夫の景色が本当に良かったので、どこへ行っても自然と海辺を求めて出かけていたんです。だから、「毎日海が見える場所に暮らしたいなら、いっそ故郷に帰ったほうがいいんじゃない？」という思いが強くなりました。それに、食べ物もとてもおいしい。やっぱり海と食べ物、この二つが知夫の大きな魅力ですね。

——皆さん、ありがとうございました。



仲さん（休暇を利用して参加されている知夫里島の本物の郵便局長さん）



知夫里島の赤ハゲ山から見た海の風景

## 編集後記

創刊号の取材のため、隠岐諸島の知夫里島を訪れました。天気はやや不安定で、雨が少し降ったりやんだりしていましたが、島から見た海の風景は視野一杯に広がって素晴らしく、「地球が丸い」ということが感覚に素直に飛び込んでくるスケール感でした。

あおぞら郵便局のポストを置いてあるホテルでたまたま出会った島外から来た青年は「知夫里島は良い意味で離島らしい離島」と表現していました。今回の取材では数時間しか知夫里島に滞在しなかったため、その言葉の真意を深く味わうまでは至りませんでしたが、ぜひ時間を忘れてこの島の「離島らしさ」を堪能したい。そう思わせてくれる魅力的な場所でした。

■ 知夫あおぞら郵便局      \島からお返事が届きます／      ■

☎684-0100 島根県隠岐郡知夫村 知夫あおぞら郵便局

<https://www.instagram.com/chibu.aozorapost/>